



2011年8月5日、日本のカメ研究者にとっては記念すべき日となった。全国で淡水産カメの研究に関わっている中高生が、我が国のカメ研究の第一人者である**矢部隆先生**の下、名古屋の地に集結したのである。北は佐野高校から南は高知の四万十高校まで計7校、顧問、スタッフも含めて総勢**約40名**を数えた。たかだか40名と思われるかもしれないが、カメに興味を持ち、研究している中高生や顧問がこうして一堂に会したのは初めてのことである。



1日目：愛知学泉大学（豊田キャンパス）を会場として、「高校生カメサミット2011」が開幕した。

13:30 開会

13:30~14:30 基調講演（講師：矢部隆）

14:40~16:30 各地（各学校）からの報告

①愛知県立衣台高等学校

「逢妻女川における水生動物相と外来動物の侵入状況について」

②岐阜県立岐阜高等学校

「岐阜県の淡水カメ類」

③高知県立四万十高等学校

「カメとボクと、時々、アミカ」

④トリム清心学園・清心女子高校（岡山県）

「ソクリト化された水路におけるミツツビ・アカミガメの行動」

⑤静岡理科大学・静岡北中学校

「巴川水系における外来産カメ類の定着とその影響」

⑥栃木県立佐野高等学校

「三杉川に生息するワカメおよびミツツビ・アカミガメの行動について」

16:50~19:10 カメのマークシツ及びカミツキガメの解剖実習



各学校の発表の後には、実習施設に移動してカメの**マーキング実習**を行った。ドリルでカメの甲板に穴を開ける練習であったが、日頃やりなれている佐高生にはお手のもので、**マイドリル**を持参していた本校の矢ヶ崎君は賞賛のまなざしを受けていた。

そして、本日のメインイベントである**カミツキガメの解剖**が始まった。特定外来生物に指定されているカミツキガメを解剖できるのはカメサミットの特典である。カミツキガメを研究テーマにしている学生の指導で、まず腹側の甲板をはずし内臓を摘出していく。最初はいやがっていた女子校生たちであったが、ひとたび始まると「**解剖女子**」に変身である。予定時間を大幅に超え、終了したときは、もう真っ暗になっていた。

2日目：**名古屋港水族館**に集合。この水族館には**ウミガメ**の研究施設があり、繁殖を行っているのが特徴である。午前中はウミガメに関するレクチャーを受け、ウミガメの観察を行った。午後は名古屋城の近くの施設（フラワープラザ）に移動した。矢部先生のレクチャーの後、各校の顧問の先生方による「**カメの隣人**」と称して、貝やカエル、イモリなどに関する研究成果が発表された。そして、最後は名古屋城の堀に生息するカメの観察を行い、名古屋城をバックに記念撮影を行った。



後ろの船は南極観測船「富士」



「ウミガメ」のレクチャー



ウミガメにエサをやる係員



アルケロン
白亜紀後期のカメ 全長4.6m



世界最大の淡水ガメの化石
スツペンデミス



3日目：最終日は「**岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ**」での研修である。ここでは、現在、矢部先生監修のカメ展が開催されており、日本や世界のカメが展示されている。これだけの種類のカメを見る機会には滅多にないだろう。矢部先生自らの解説もあり、**カメの多様性**について学ぶことができた。水族館の舞台裏をみるバックヤードツアーでは、飼育や展示の苦勞などがよくわかった。こうして、3日間にわたる「高校生カメサミット2011」は大成功のうちに終了した。来年は「**高校生カメサミット2012**」を開催する予定。



ゾウガメ



バックヤードツアーより



カメを解説する矢部先生